

参考資料

○班単位レポート報告（1班を抜粋）

6/22

班レポート

提出日 平成 28 年 6 月 22 日 水曜日
第 7 回教職課程総論資料：長谷川

1 班 海陽町の文化を活用した地域文化の発信について

ファシリテータ 151008 岡田美紅
記録係 167501 岡本真里奈
写真係 151001 安西めぐみ
151003 上地里由加
151005 大久保沙莉
151007 岡口光
157507 戸祝一聖
167502 辻真未

1. 海南文化村での学び

①グループ討議

成果・学んだこと

☆海部刀がなぜ広まらないのか。

海部刀が有名でない理由は大きく分けて2つあると考える。1つは海部刀といえば、岩を切ったとされることで有名な「岩切海部」という海部刀があるが、持ち主の三好長徳が、織田信長や徳川家康などの有名な武将の影に隠れてしまい、余り知られていない事があげられる。2つめに海部刀そのものは関ヶ原での活躍などがあるが、本州で活躍した刀に世間の目が集中しており、地方で作られた刀が余り注目されない傾向にも原因があると考えられる。

辻真未

一般的に広まっているのは、五ヶ伝と呼ばれる、神奈川・愛知・岡山・奈良・京都にある天下の刀である。この他にも色々な地域にいい刀があるが、本州の主街道で活躍してきた刀が人々には知られ、地方にある刀はあまり知られていない。海部刀もそのうちのひとつである。さなだ丸という大河ドラマの中で、関ヶ原の戦いの場面があるが、そこででてくる刀は海部刀と見た目等、同じつくりであるそうだが、昔活躍した刀と、鑑定上が見間違えるほどに海部刀は立派な刀であるが、やはりつくられていたのが地方であったために、世間に知られることがなかったのだらうと考える。

岡本真里奈

最近では、DMM.comの刀剣乱舞という刀を擬人化したゲームが流行っており、歴史女と呼ばれる人々が存在しているが、海部刀は知られていない。インターネットで刀関係を調べてみてもまず出てこないということは、多くの刀の中で有名ではないまたは情報がインターネット

上などにほとんど流れていないと考えられる。一般の人々が刀と聞いて想像する刀と異なっている海部刀の特徴である背のノコギリが受け入れがたいのかもしれないと考えられる。

安西萌

海部刀が有名じゃない理由は、

他の有名な刀は本州などを中心に多くあるが、比べて海部刀は地方の刀である為、あまり知られていない。

関ヶ原の戦いで使われたと思われる海部刀は、徳川家康の元に献上されたと知られているのにも関わらず、知れ渡っていないのは、私の推測でただ単に家族にその刀が気に入られなかったということじゃないかと考えました。

上地里也加

☆海部刀の発信方法

海部町では町おこしの為には夏休みや11月頃の期間に子供達を集め、文化財めぐりをするが町内散策を行い、展示会などのイベントを行っている。また、地域の人達が町おこしの為に集まって「劇団レインボー」という劇団をつくり、劇や人形劇などで民話を伝えていくという活動をしている。

父が海部刀を保持していたことから海部刀に詳しい館長の岡田さんが、関ヶ原の戦い、大阪夏の陣・冬の陣で海部刀が活躍していたことや、海部刀がお礼の贈り物として使われていて徳川家康が深く感謝していたことなど、資料館に訪れた人達にたくさんの知識を伝えていっている。

岡田光

海部刀の発信方法として、海陽町では、織田信長の前に栄えた三好吉永のことを大河ドラマにする活動を行っている。また、劇団レインボーというのもあり、人形などを使って海陽町の文化や歴史を伝えているようである。そして、小学校・中学校・高校で夏と秋に交流をして、学習する機会もつくっているようだ。

このような発信方法がある中で、私達にもできることはないかと考えた。発信するうえで、私はまず、若い人達に知ってもらおうのが大切になってくると思う。海部刀だけでなく、何かを多くの人に伝えるには次の世代である若い人達に知ってもらい、また次の世代という風に繋げていく必要があると感じる。よって、海部刀の展示会等に海陽町以外の小学校・中学校等の生徒達に見に来てもらい、興味をもってもらう。私達が今回海陽町に行って、海部刀を見て感動したように、実際に見てもらえば海部刀の魅力や良さに気付いてもらえると思う。なので、色々な学校、また観光客の人々に展示会等に見に来てもらえるよう宣伝や呼びかけをし、積極的に交流していく事が大事だと考える。

岡田美紅

隣県の高知では、肥後伝から少しずつ(高知県そのものを含み)知名度が上がっていきま
した。そしてなによりも、高知県知事、尾崎知事が自ら働き、活性化させようとしていたこ
とが、知名度を上げていく一番の要因だと感じていました。

ですから、海部刀も同じで、刀に関する人物等を上げてドラマ化される事が一番の策です。
しかし、これに関しては近いうちに、ドラマ化するようなので、第一関門は突破したと思っ
てもいいでしょう。あとは、地元の方々などで、早に海部関連のことで、働きかけようとする
事、また宣伝等が発信するにあたって、大切な事です。

戸尾一規

海部町では町の活性化を図り、海部刀という刀を絡めた宣伝を行っている。主な活動内容と
しては夏やと秋頃に学生を招待し、海部町の文化や歴史についての交流会を行っている。町
には海部刀の展示会があり、その見学もでき、肌で感じられるような内容になっている。
また、町では「劇『レインボー』』と呼ばれる劇などを行い、歴史を伝達しようと活動してい
る。

大久保沙莉





2. 総括

(1) 課題解決に向けた具体的対策としては、大河ドラマにしてもらえるように交渉し、また、劇団レイボールと呼ばれる劇などを行っている。また、夏休みと秋の期間に学生を対象とした、文化財めぐりや展覧会などを行い、若者に興味を持ってもらえる活動をしている。

(2) 地域の活性化につなげるために、情報社会であることをいかし、海部刀や海陽町の情報を発信していき多くの人に知ってもらうようにすると良いと考えられる。SNS やインターネットに発信していくことで、海外の人にも知ってもらうことができると思われる。



○個人単位レポート報告（抜粋）

「震潮記」を活用した「防災文化」について

人間生活学部 人間生活学科 2年

私は愛媛県出身ということもあり、この「震潮記」を読み始めて徳島県で過去に起こった大地震の被害や大地震が起こったという事実を知った。「震潮記」を読んだことによって得ることができた知識は今後起こる南海トラフ大地震が起こった時など地震が起こった際に役立つものだと思う。下記から「震潮記」に記してある助かることができた人と死亡した人の違いや地震に対する意識についてまとめ、それらのことが現代どのように活用していくべきなのか私の考えを述べようと思う。

地震によって起こる被害は揺れによる建物の破損や地割れによる被害よりも地震が起こったことによって発生した津波の被害のほうが大きく、多くの方が津波に流され命を落とした。その人数は多く衝撃的なものであった。「震潮記」に載っている地震で助かった人々には山へ逃げた、という共通点があり、助かるためには何も物を持たずひたすら山や高い所へ逃げるのが大切である。物を取りに戻ることや逃げる際に心に迷いがあると逃げ遅れ死亡したという実録も記しており、津波は一度だけでなく二度、三度とやってくるため一度津波から逃れたからと言って決して油断してはならない。また、津波に関しては鞆浦に右鞆浦旧年の津波の記が立岩に『最初から海潮の変化を考慮して津波を避けるべきである。そうすれば被害を免れることは可能である。』と刻んであると記しており、この一文からも地震は揺れに対して備えるよりも揺れの後に起こると予測される津波に対して備えることが重要であることが感じ取れる。これらのことを踏まえて現代に活用するにはどのようなことが可能か考えた。

昨今記憶に新しい地震といえば東日本大地震と熊本地震が思い浮かぶであろう。特に東日本大震災では津波や原発による被害が印象的である。現代は昔と比べ建物の構造が大きく異なり、背は高く木造でないものが多いだろう。この差からも地震で起こる被害は昔と比べ大きく異なるだろう。昔は電気などがなく火災など二次被害が起こることは少なかったが、現代では二次災害の被害は大きい。ガス漏れや電化製品の発火による火災、原子発電所の破損によって放射線が漏れだし被曝や汚染により尊大な被害が起こっている。それらのこともあり、現代の地震対策として耐震性の優れた建築物や発火しづらい物質の研究などが盛んに行われている。これらの対策はとても大事なものであり、この技術の発達のおかげでたくさんの命を救うことができたであろう。時代が進み変化していくなかで防災において重視するところは変わりいつの間にか津波に対する注意意識は減っているようにも感じる。だが、津波に対する注意意識が減った原因は火災などの二次災害対策の重視だけではなく科学技術の発展も関わっていると考える。現代ではいろいろな物事が予測、推定することが可能になっている。この技術はとても優れたものであり、私たちの生活に欠かせないものになっている。

だが、東日本大震災で起こった津波は事前に予測されていた津波よりも大きなものであり、事前の行っていた津波に対策はあまり意味をなさなかった。私たちは科学技術に頼りすぎていたのだと思う。昔の人のように人の目で直接自然の変化を感じ取り、その時の現状に応じて行動することが大事であると考え。その様なことができていたならば、津波によって起こった被害数を少しは減らすことが可能であったのではないだろうか。この壮大な津波被害により現在再び津波に対する注意意識が高まり、多くの学者が津波対策について考えている。だが、なぜ我々現代人は今になって津波に対して重視をしているのだろうか。過去の大地震から昔の人が津波に注意することと伝え残してきたのに対し我々は津波を軽く見ていたのではないだろうか。科学技術の発展は私たちの暮らしを快適なものにするが、それ故に科学技術、現代の知恵を重視してしまい昔からの伝えを忘れてしまうのではないだろうか。命を守るためにも科学技術の発達によってできた防災道具、災害に強い建築物や災害が起こらないための建築物などの現在の知恵、そして昔から伝えられてきた知恵である自分自身、人の目で自然を見ることによってその変化を感じ取り考え、判断を行うこの二つを基準として対策を考え、行うべきであると私は考える。どちらか片方だけでは十分な対策法とは言えないだろう。現代だけを見るのではなく過去を見直し、その技術、対策法を伝承していくことで被害を減らしていけるのではないだろうか。この昔からの知恵を伝え残すためにも子供の頃から教育の一環として教えることが必要であると考え。そうすれば科学技術に頼るだけでなく自分でも判断が可能になり、助かる可能性は上がり被害を少なくできるのではないだろうか。「震潮記」には今生きてあ津波避難について以下の三つ記してある。『津波は一度でなく数度襲ってくるので、地震後、直ちに近くの高いところへ避難せよ。』『川筋では、特に地震後すぐに津波が襲ってくるので、早く避難せよ。』『津波来襲時に早く非難しない者、舟に乗って避難しようとする者は命を失う。』これらの教訓はこれからも伝え残していくべきものだと思う。

今回「震潮記」を読み、考えることで地震によって起こる津波被害についていろいろと知ることができた。自分自身科学技術に頼っていることが多く、自分の目で判断することは少ないと思う。これは私自身だけでなく多くの現代人が当てはまるのではないだろうか。今後は空の変化や風、鳥などを観察し自然と向き合うことによって自分自身で災害時に適切な判断が行えるようになりたいと思う。それがもし可能になれば、地震だけでなく台風や豪雨、雷などいろいろな自然災害にも対応することが可能になるだろう。そうしたことができる人が増えることが被害を少なくするためには必要不可欠だと思う。私は今回自分自身で判断できる力を得ることが自分の身を守るためにも必要だと強く感じた。過去に起こった地震やその体験から分かったことを書き残し防災文化として今後未来へと伝え残していくことは大切であると考え。

○学習指導案（抜粋）

海陽町の子どもたち一人ひとりの進路実現に向けた主体的な学習につなげる基礎学力の充実について（学習指導案）

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 平成 28 年 6 月 22 日（水）第 4 時限
- 3 学級 9201
- 4 使用教科書 無し
- 5 単元名 海陽町の子どもたち一人ひとりの進路実現に向けた主体的な学習につなげる基礎学力の充実について

6 単元設定の理由

海陽町は現在高齢化が進んでおり、今居る子どもたちにこの地域の未来がかかっている。しかし、海陽町は高齢化だけでなく少子化もすすんでおり、この町の将来を担う子どもが少ないのが現状である。

この単元では、子どもたちに自分たちが生まれた故郷の大切さを理解してもらうことが大切である。

7 単元の目標

- ① 海陽町の特徴を覚える
- ② 自分たちの存在価値を理解する

8 単元の評価規準

- ① 自分が将来やりたいことを一人ひとり明確にする(関心・意欲・態度)
- ② 将来のために今自分がやるべきことを見つける(思考・判断・表現)
- ③ 自分の学習方法を見つめ直して改善する(観察)

9 指導計画・評価計画

時間	学習内容	ねらい	単元の評価基準との関連			評価方法等
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	観察	
1	・将来の目標	・将来の目標について	○		○	○行動観察
2		明確にする		◎		◎ワークシート

3		・ 将来のために今自分がやるべきことを見つける				
4 5	・ 学習方法の見直し	・ 自分の学習方法を見つめ直して改善する	○	◎	○	○行動観察 ◎ワークシート

10 本時の指導目標

基本的な知識を身に着け、個人の能力を高める。

11 本時の展開

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的 評価基準	評価方法
導入 (5)	1. 将来の目標を確認する	・ 将来像を描きやすいようにする	・ 将来について真面目に考える(関心・意欲・態度)	行動観察
展開 (30)	2. 個人の勉強方法を書き出す 3. 勉強時間を書き出す 4. 得意な教科と苦手な教科を書き出す	・ きちんと書き出しているか机間巡視を行う	・ 自分自身を理解している(思考・判断・表現)	行動観察 ワークシート
まとめ (5)	5. 勉強方法の改善策を考える 6. 苦手教科の対策をする 7. 勉強時間の日程を組む	・ 具体的な改善策を挙げて個人に合ったやり方を見つける		

○アクティブ・ラーニングレポート（抜粋）

海陽町でのアクティブ・ラーニングレポート（個人用）

人間生活学部人間生活学科 2年

◎実施日 平成28年6月11日（土）7時30分～18時

◎実施場所 美波町役場裏山
海陽町博物館

1 美波町日和佐役場裏山への津波避難体験

（成果）

裏山を登るとき、最初に目に入ったのは金属で出来た階段でした。金属で出来ているので足元に安定感があり、登りやすかったです。約3分で金属の階段は終わり、一度広い場所に出ました(1枚目)。その後は整備された山道が続いていました。

もう一度広い場所に出ると、そこには備蓄庫がありました。屋根の近くにはソーラーパネルがあり、発電出来るようになっています。また、その場にあるベンチは下がかまどになっており、ご飯を炊いたり食べ物を焼いたりすることが可能です(2枚目)。

（課題）

金属の階段は見た目以上に傾斜が急であり、一段一段が高いです。お年寄りが登るには少し厳しいのではないかと感じました。



2 海南文化村での学び（刀剣等の資料説明、講演）

（1）古文書をとおしての地震・津波体験講座

- ① 講座1「震潮記について」
- ② 講座2「海陽町の火災について*防災、歴史・自然・人～地方創生へ」
- ③ 講座3「博物館内 海部刀鑑賞」
- ④ グループ討議「海陽町の子どもたち一人ひとりの進路実現に向けた主体的な学習につなげる基礎学力の充実について」

(成果)

海部町には江戸時代後期に作られた「のこぎり刀」という珍しい刀があります。この「のこぎり刀」は海部刀の中で最も有名であり、一風変わった形をしています。山刀風の海部刀の棟(背)にのこぎりがついていて、海部の地方色があふれる刀になっているのです。

徳島県出身で無形文化財保持者である杉山正俊さんが研究を重ね、独自の方法でこの「のこぎり刀」を再現することに成功しました。



(2) 現地研修

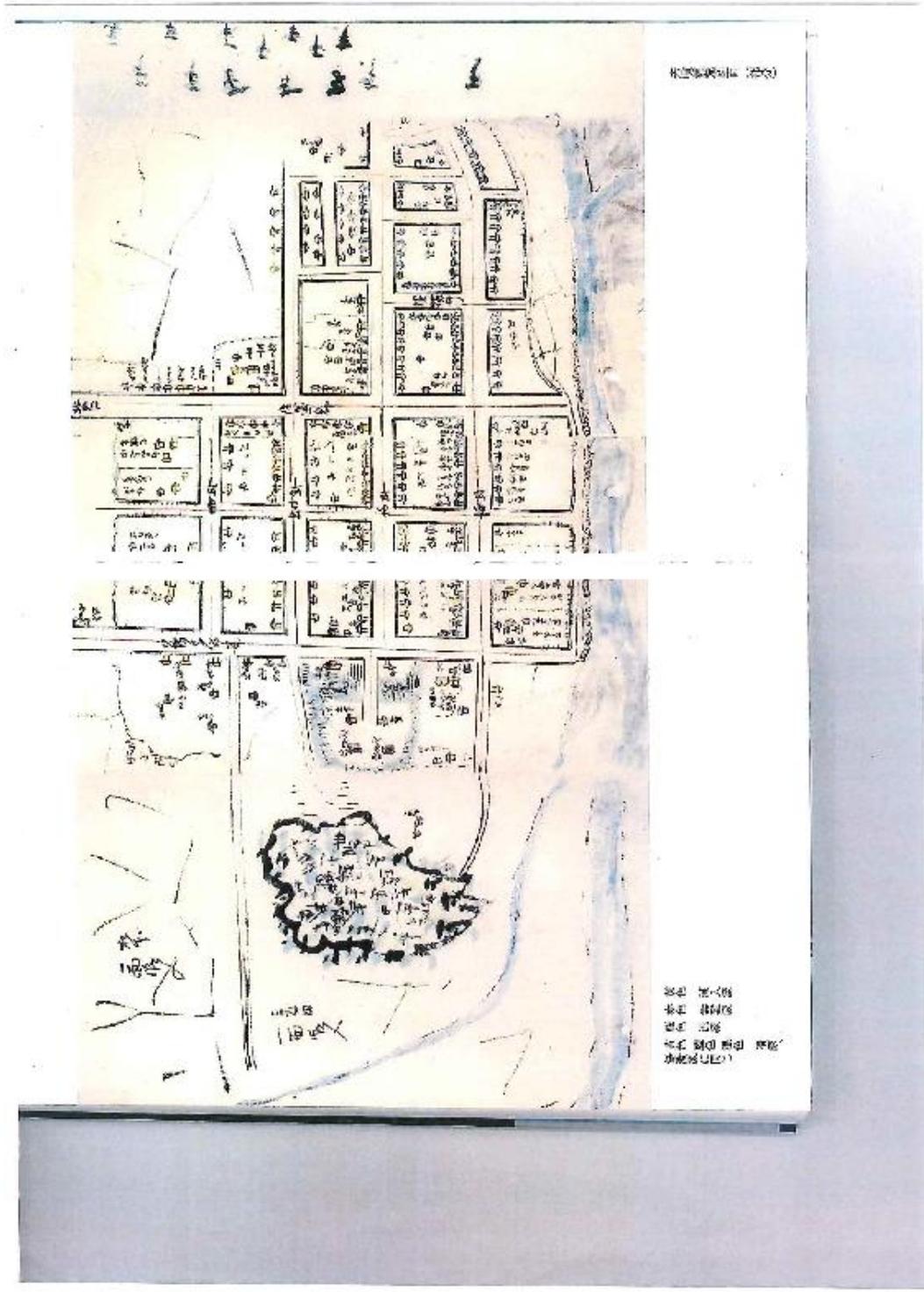
(成果)

刀工氏吉の碑、海部城跡・判形人・森志摩守、墓、鞆浦津波の碑、宍喰愛宕神社・お山の杉の子碑などを見学しました。

3 総括

- (1) 子どもたちそれぞれが自主学習に取り組む意欲を高め、読書をしたり、計算ドリルをしたりすることが大切だと思いました。また、周りの人たちが勉強しやすい環境をつくることも必要です。
- (2) 今回学びに行くにあたって事前に震潮記を読んでいきましたが本を読むのと実際話を聞くのとではやはり違いました。昔の人が残したメッセージを若い世代に積極的に伝えていきたいです。
- (3) 海陽町は少子高齢化が進んでおり、人口がどんどん減少しております。しかしたくさんの特産物があります。これらを宣伝して魅力を全国的に知らせることが重要です。

「震潮記」に書かれた安政南海地震・津波での被害の様子を描いた図（流出家屋を藍色。浸水家屋を黄色。被害がなかった家屋を赤色で示している）
左端に丸く見えるのが愛宕山。右側は海



○班単位（海陽町・旧宍喰町でのアクティブ・ラーニングレポート）

全体でのテーマ（地震・津波から命を守る取り組み）（1班を抜粋）

1班 学んだことを徳島でどう生かすか

1. 海陽町浅川での学習

（成果）

12月17日に私たちは、のんびりウォーク8キロコースに参加した。地域の子供たちと会話をしながら、多くの自然の中を歩くことはめったに無いのでとてもいい機会になった。実際に自らの足で浅川地区の記念碑を探し歩くことで、インターネットで調べるだけでは分からない浅川地区の雰囲気やリアルな防災への取り組み、昔の人や地元の人のお話し、思いを肌で感じることができた。下の写真1と写真2は、現地で撮影した写真である。



写真1 南海地震津波最高潮位を示す
石碑



写真2 津波が来た際非難するための
階段

（課題）

課題として、近い将来来るとされている南海地震から自分の命は自分で守る態度を育てる必要があると考える。また、この日学んだ活かし、想定にとらわれ油断することなく、地震が来た時にはすぐ逃げ、そのときできる最善を判断し、私たち大学生が先頭切って地域の人を守らなければならないと考える。

2 旧宍喰町での学び（現地指導）

《成果・学んだ事等》

旧宍喰町愛宕山では、昔の地震の記録がたくさんある資料館や、避難場所である古い神社に行きました。津波といえばこの山だったそうだ。1512年の永正大地震では3700人の人々が亡くなったと聞き、江戸時代には、1605年の慶長・1707年の宝永・1854年の安政と三度

の地震があり、その度に大きな津波が来たのだと知ることができた。およそ100年で起こる大きな地震を体験し、その記録を後世に残していき生かしていくことによって、死者数が減少しているのは素晴らしいことだと思う。

私たちが生まれてから、地震や津波の被害には直接的にあっていないが、30年のうちに70%の確率で南海大地震が来ると言われており、それは明日にも地震が起こっても不思議ではないと聞き、防災の取り組みがしっかりとされた参考にするべき町である海陽町は、震災に向けて吸収できることが多く、貴重な時間だった。普段からいつ地震が起こっても対応できるように、今回学んだことを生かしていきたい。

3. 海陽町への提言策

(1) 提言するテーマ

観光客を増やす

(2) 理由

歩いていたときにあまり人に会わなかったので、人口が少ないと考える。

そのため、移住者を増やすために海陽町のいいところをアピールし、まずは、観光客を増やすことが大事だと考えるから。

(3) 具体的な取り組み

古民家や町並みは、古風な感じで綺麗だがゆっくり滞在できる場所が少なかったため、観光客が来てくれたとしてもすぐに帰ってしまう。

その対策として、

- ・古民家カフェを造る。

具体策⇒囲炉裏があり、折り畳みの木でできた机と椅子を使用し、

生け花がある風勢のある古民家みたいなカフェ

- ・食べ歩きできるような店を作り、町なみを見て回ってもらう。

具体例⇒和菓子屋さん、たいやき屋さん、アイスクリンやさんな

ど

注意 食べ歩きにするとポイ捨てが増えると予測し、ごみ箱の設置や土日に地域でゴミ拾いを行う。地域でゴミ拾いを行うことにより、地域の交流が増え、災害の時などのときに助け合うことができる。

- ・ブログやインターネットで古民家カフェや、食べ歩きのお店の宣伝と一緒に町並みや海岸の写真を貼り海陽町の良いところをアピールする。

(4) 期待される効果

観光客の滞在時間も増え、より多く、海陽町の魅力を知ってもらい観光客が増え、さらに移住者も増えると期待する。

4. 総括

班として、どこの地域も人口の減少が課題であるト考える。逆にその課題は、人が少ないことで1人1人が深く関われるという魅力がある。なので、地域住民が家族のような暖かい地域になれると考える。実際に海陽町の方々と接することで温もりを感じた。県外の人や外国の方々等より多くの方が訪れてもらうために滞在時間を増やす鶏雲見がひつようだと考える。

○班単位プレゼンテーション風景（ファシリテーターが代表発表）



○模擬授業風景（各自の作成した学習指導案に基づき代表者が実施）



